福岡教区のアプリができました。スマートフォンで教区情報を簡単に得ることができます。詳細は教区ホームページでご確認ください。

カトリック福岡教区報

ヨゼフ アベイヤ司教認可
発行所　福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通6-28
発行人　カトリック福岡司教区
編集人　山元　眞
TEL　092-522-4059
FAX　092-523-2152
振替口座　01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価　1部70円

2024年 司教年頭メッセージ

2024年の福岡教区の歩み

互いに支え合う交わりの教会となる

福岡教区長　司教　ヨゼフ・アベイヤ

ヨゼフ・アベイヤ司教

新しい年：希望と不安

２０２３年を後にしました。どういう出来事が特に心に残っているでしょうか。個人的な事柄を別にして、教会の場合は言うまでもなく、シノドスの歩みと10月のローマでの会議は大きな出来事でした。それに加え、リスボンの世界青年大会は皆に希望を与えてくれました。また２０２３年に教皇フランシスコは再度アジアを訪れました。モンゴルの訪問を通して、教皇は福音宣教を呼び掛けてくださいました。そして、福音宣教に欠かせない文化と他宗教との対話の大切さを思い起こさせてくださったのです。

世界は戦争の暗闇に覆われましたが、12月10日の「人権宣言75周年記念」はその中の光です。第二次世界大戦が終わり、その間違いを二度と繰り返さないために「人権宣言」が発表されました。多くの国々の努力の大きな成果でした。残念ながら、こういう理想から離れてしまっている状況を毎日のように体験しています。キリスト者として、この人権宣言が実行されるように努めなければなりません。

一方、新しい年を迎えるにあたっては、心の中で希望と不安を味わっています。神が与えてくださる「とき」としています。ただ、神の心からあまりにも離れた現実を毎日のように知らされています。２０２４年はどんな年になるのだろうかと心配しますが、大切なのは、私たち自身が２０２４年をどんな年にしたいかということです。神の心に適った年になるように働く決意を改めたいと思います。

福岡教区設立１００周年に向けて

２０２７年に福岡教区は教区設立１００周年を迎えます。教区宣教司牧評議会では三年間をかけてこの記念すべきときを準備することについて話し合われました。２０２４年は、準備の最初の年になります。具体的な企画はこれから示されることになりますが、基本的な方針として、毎年、教区の宣教司牧方針の三つの指針のうち一つをテーマにして進んで行くようにしたいと思います。

２０２４年は、第二の指針「交わりの教会となる」。２０２５年は、第三の指針「未来に開かれた教会となる」。２０２６年は、２０２３年に既にテーマにした第一の指針「出向いて行く教会となる」。宣教司牧方針は、皆で作り上げられたもので、１００周年の祝いに向かって行く教区の歩みを導くものとして発表されたのです。

２０２４年のテーマ「互いに支え合う交わりの教会となる」

この宣教司牧方針の第二の指針のサブタイトルは、「一致と協力体制を強化し、教会の中の福音的な交わりを育てる」となっています。

宣教司牧方針を作っていくプロセスの中で皆さんにお願いしたアンケートには、「一致」と「交わり」を深める願いが強く表明されました。当然なことです。

皆さんにお願いしたいのは、この目標を達成するために、宣教司牧方針で示されている三つの指針とそれらを実行するための具体的なヒントを読み直すことです（宣教司牧方針の冊子の25ページから27ページまでにあります）。思い起こしてみましょう。

(1) 典礼に積極的に参加し共同体の一致を深める

ミサは、キリストの死と復活の記念であり、その神秘に与る私たちのキリスト者としての歩みの中心です。深い感謝をもってミサに参加することは大きな恵みです。

一年前から一部刷新されたミサの日本語の訳は、ミサをよりよく理解するために助けとなったでしょう。ただ、一番大事なのは、ミサと私たちの毎日の生活のつながりです。朗読されたみことばはどのように心に響くのか。ご聖体をいただくのは、どのように私の生き方を変えるのか。

典礼の総則に定められていることを守りながらも、ミサをより身近に感じられるように工夫してくださればいいと思います。様々なことができます。教会委員会で話し合ってみてください。

(2) 確かな一致をめざして組織を見直し、コミュニケーションを強化する

対話を深めることが必要です。宣教司牧方針に色々なヒントが示されています。情報を共有し、ともに歩むために話し合いの場を作る必要があります。

教区全体と各地区で「宣教司牧評議会」を中心に動いています。また、それぞれの委員会は活動の充実を目指しています。嬉しいことです。加えて、様々な活動団体はずっと前から素晴らしい活動を続けています。さらにそれらを深めてくだされば幸いです。宣教司牧評議会とのつながりを保ちながら、それぞれの活動を通して福音宣教に励んでいただきたいと思います。

特にお願いしたいことがあります。様々な理由で教会共同体から離れた兄弟姉妹とのつながりを作り直すように努力してください。各小教区でどのようにそれを実現していくかを話してみてください。

(3) 皆が与えられている使命を生きる

教会共同体を成長させていくのは皆の責任です。「すべての人に福音を伝えなさい」というイエスのことばは皆に向けられています。どのように、一人ひとりがそれを受けとめているでしょうか。

ちょっとした奉仕は誰にでもできます。信徒として、家庭において、また、多くの人々との関わりの中で福音に導かれて生活しようとすれば周りの人々に伝わることがあると思います。自分の使命は何かを考え、主の恵みに頼りながらそれを果たしていくように心がけていただきたいと思います。お互いに支え合いながら、教会を活性化しましょう。

皆様にとって、２０２４年が恵み豊かな年になりますように。　ヨゼフ・アベイヤ

※「世界人権宣言75周年」については国際連合（国連）広報センターのホームページをご覧ください。

キリスト教一致祈祷週間（　1月18日～25日　）

2024年テーマ
「あなたの神である主を愛しなさい、また、隣人を自分のように愛しなさい（聖書箇所ルカ 10・27）」

キリスト教諸教会では、毎年この１週間を“キリスト教一致祈祷週間”と定めています。最後の晩さんで「すべての人を一つにしてください」（ヨハネ 17.21）と祈られたイエスの祈りに耳を傾け、このことを強く意識いたしましょう。

教皇庁キリスト教一致推進評議会と世界教会協議会は1968年以来、毎年テーマを決め、「礼拝式文」と「８日間の聖書の黙想と祈り」を作成しています。
※下記QRコードからご覧ください。

【合同礼拝】
日時：１月21日（日）
　　16時～17時
開場：日本基督教団 福岡中部教会（福岡市中央区大名２丁目４-36号）

【世界奉献生活の日】講話と感謝ミサ

講話・司式：ヨゼフ・アベイヤ司教

聖ヨハネ・パウロ二世教皇は、主の奉献の祝日である２月２日を「世界奉献生活の日」と定めました。すべての信者は、奉献生活の賜物を感謝し、この道を生きるように召されている兄弟姉妹のために祈る日になっています。

福岡教区でもこの日を祝うためにミサを捧げます。修道者だけではなく、多くの信徒も参加して、奉献生活を生きている兄弟姉妹のために祈りましょう。参加できない方のためには動画配信をいたします。

＜スケジュール＞
日時：２月３日（土）
　　14:30　奉献生活についての講話
　　15:30　感謝ミサ
場所：カテドラル・カトリック大名町教会

動画は下記のいずれかよりご視聴ください。
・福岡司教区ホームページ　http://fukuoka.catholic.jp か 右記 QR コード
・YouTube →カトリック福岡司教区→「世界奉献生活の日ミサ」で検索

1月の意向

教皇様の意向のために祈りましょう

【教皇の意向】　多様性という賜物

【日本の教会】　すべての命を守る

時の話題

平和な世界を祈って

８月に行われた「平和を祈る集い」で様々な年齢の子どもたちが平和への思いを発表しました。それによって、私たちの平和への意識が高まったと信じています。

しかし世界では、ロシアのウクライナ侵攻が続く中、イスラエルとハマスとの間でも戦争が始まってしまいました。ニュースでは毎日たくさんの尊い命が奪われているという報道が流れてきます。

ほかにも、国と国との戦争だけでなく、国内での争い、人権の抑圧、経済格差など様々な問題があふれています。戦争で足や腕をなくしてしまった子どもたちや、家族を亡くしてしまい、孤独と悲しみに包まれている人たちもいます。私と同世代の人たちが、同じ地球上の違う場所で同じ時間に傷つき、笑顔をなくしてしまっているのです。

こんな今の世界が平和といえるでしょうか。平和というのはすべての人々が、心から笑える世界だと思います。戦争や差別、格差が多くある世界を平和であるとは言えません。日本は比較的安全なので、世界の平和について考える機会は少ないかもしれません。平和を考えるということは、その背景を知ることだと思います。知ることによって平和の輪は広がると思います。ただ「平和になりますように」と祈るのではなく、知ったうえで祈ることによって、ゆっくり一歩一歩平和の輪を広げていくことができるのだと思います。

世界の人々が平和を願う気持ちは変わりません。世界を見て、聴いて、知って、祈りましょう。皆が笑顔でいられる、平和な世界が来ることを祈っています。

箱崎教会　髙岸杏奈（中三）

みちくさ

活気を取り戻した教会で、クリスマスを多くの人たちと祝うことができたことを喜ぶとともに、無事に２０２４年を迎えられる恵を感謝したい。主イエスご降誕の出来事を表す馬小屋の飾りは、年が明けて「主の公現の主日」までずっと私たちの目に触れ、福音の喜びを伝えてくれている▼５年前の春、聖地巡礼で主イエスご降誕の地ベツレヘムを訪れた。ベツレヘムはエルサレムから車で30分ほどのパレスチナ自治区ヨルダン川西岸地区にあり、高いコンクリートの分離壁に行く手を阻まれていて、検問所を通らなければ町の中に入ることができなかった。にもかかわらず、様々な国から多くの聖地巡礼団がこの町を訪れていた▼主イエスご降誕とされる場所に建てられた聖誕教会の中、階段を下りた狭い場所にある聖誕洞窟の正面は、身動きが取れないほどの人混みだった。いら立つ人々が見受けられたが、巡礼団の一つが自国の言葉で「きよしこの夜」を口ずさみ始めると、はからずも多言語の小さな合唱になり、異なる国の人々が顔を見合わせながら笑みを浮かべ、その場の空気がひととき和やかになった。はるばる巡礼に訪れた聖地で、主イエスご降誕の場で、ともに賛美の歌を歌うことができ、そこに居合わせた人々も小さな感動を覚えたにちがいない。〝主の平和！〟と挨拶をしたかったと今になって強く思う▼クリスマスを祝い、新しい年を恵みのうちに迎えることができる今、あの感動を思い出しながら、平和のほほ笑みが一日も早く聖地で交わされることを祈っている。（G）

聖体奉仕者　新たに37人

任命を受けた皆さんのお働きに感謝

11月19日（日）、カテドラル大名町教会で聖体奉仕者の任命式が行われ、新しく37人がヨゼフ・アベイヤ司教から聖体奉仕者の任命を受けた。

　聖体奉仕者は、ミサやその他の祭儀の中で、通常の聖体授与者である司祭、助祭が不在のとき、病気、高齢などのために聖体を授与できないとき、また拝領者が多くて式が長くなったりするときに司祭、助祭を助けて聖体を授けたり、さらに病人や高齢者を訪問して聖体を授ける。正式には「聖体授与の臨時の奉仕者」という。

　今回任命を受けたのは13小教区の信徒34人と1修道会の修道女3人で、地区や小教区で養成を受けこの日に臨んだ。

　任命式に先立ち、教区典礼委員長の十時伸治神父（光丘教会主任）が、ミサや病人のもとでの聖体授与の心得と実際を配布のしおりにしたがって解説した。任命式でアベイヤ司教は「奉仕者として聖体の秘跡とその恵みを深く黙想し、キリストの体である共同体に奉仕する務めを自覚して、すべての人、特に病気の人、弱い立場の人にキリストの愛を伝えるように」とさとした。続いて奉仕者一人ひとりに、司教から任命書と奉仕の時に着用する木の十字架が授与された。

　コロナ禍のため控えられていた高齢者や病者への聖体授与も少しずつ行われる見通しの中、奉仕者の働きが期待される。

日韓の懸け橋へと
司教団交流と海を渡った司祭たち

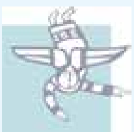
隅田川・屋形船クルーズでの懇談のひととき
（大阪高松大司教区 YouTube 動画より）

11月14日から16日まで東京で第25回日韓司教交流会が行われました。1996年に始まった交流会ですが、先日の交流会後に発表された記念メッセージには「過去の歴史を誠実に振り返り、真摯な反省の上に立った前向きな希望を共有しながら、ともに歩みを進めることで、『神との親密な交わりと全人類一致のしるし、道具（教会憲章第1項参照）』となりうると信じています」と記されています。

　この25年間、両教会の間に様々な協力が生まれました。福岡教区でも6人の韓国の司祭が、私たち宣教司牧の歩みを支えてくださっています。

　メッセージの最後に、両国の司教団は「これからも、日本と韓国の司教団は互いの交流を深め、ともに祈り合い、ともに支え合うことで、シノドス的な教会を率先してあかしするものとなり、この地域において神の平和が確立されるように、取り組んで参ります」と決意を述べています。

◆ 福岡教区宣教司牧方針を受けて ◆



2022年4月、福岡教区の「宣教司牧方針」が発表されました。教区報では、「宣教司牧方針」を受け、各小教区や団体で取り組んでいること、心がけていることなどについて、具体的な活動を紹介しています。
「宣教司牧方針」は右記 QR コードからご覧になれます

北九州地区宣教司牧評議会主催　聖書講座

北九州地区の聖書講座は7月23日～11月19日の間、4回に分けて開催。講師は大濠カトリック会館・宣教養成センターのレナト・フィリピーニ神父と西新教会の安藤智子氏。お二人による語りは、小倉、新田原、直方教会で延べ250人の参加者の心を聖書の世界へといざない、参加者の心を釘付けにしました。

豊かな学びのとき

　本講座の基底は、聖書と向かい合う心構え、読み方の入り口、自らの力でかみ砕き、自分のものとしていく姿勢を示す大事な話です。聖書を読むことで、自分と向き合い、疑問を抱き、自らを照らして、そこに人生の歩み方を明示します。聖書は、迷い、悩み、考える道を歩むための鏡となり、変容と気づきを与えます。そして、「①様々な角度から多面的に読み解く。②自分に置き換えて読む。③人として生きることを見出す」。神との関わりの中に生き、光に向かって歩むためにあるのが聖書であって、読むことによって自己変容を促し、新たな信仰の指標を立てることができます。それゆえ、聖書を読み込むことが大事です。

　最終回ではグループによる分かち合いを行い、各々が感じたことを口に出し、耳を傾け合う中に聖霊が働くことを感じました。お二人が熱く語る「聖書を信仰の書として、生きることの糧となるように人生の傍らにおいて、皆さんの信仰がより深められますように」のお言葉に対し、北九州宣教司牧評議会長・下町豊重神父は、聖書と共に「信仰の灯、証、希望」をもって本講座で基調となっている「味合う」という心で、向き合うようにしましょうと締め括られました。

　さあ、聖書を開き、神との交わりに招かれている自分を見つけましょう。（講座参加者）

「海を渡った司祭」撮影にあたり

多くの人が視聴し反響を呼んでいる動画「海を渡った司祭」（教区報11月号掲載）。この動画を作成した韓国カトリック新聞社に、作成の意図や撮影での想いを聞いた。

1．この動画を企画した動機や目的を教えてください。

　最初は日本の教会で生活している韓国の司祭たちの暮らしに関する興味から始まった企画・取材でした。

　2022年7月、大雨の中、私たちスタッフは福岡と長崎、佐世保、武雄を回りながら日本に派遣された4人の神父たちに会いました。神父たちが日本の信者たちと共に生きている姿と、宣教に関する話を映像で制作し、韓国教会の信者たちに紹介することが目的でした。

2．取材中に感じたことや体験したことをお聞かせください。

　まず、司祭たちを通して出会ったのは日本の教会の姿でした。韓国と日本は似ているようですが、あまりにも違う姿を持っていました。例えば、美しい聖堂のように見える建物が実は結婚式場だったということです。信仰のない人たちは、外見だけ聖堂のようなところで結婚したいと思っているという点で残念に思いました。神父たちに会い、日常に神道信仰が根付いている日本社会では、信仰生活が難しいということを体感しました。

　その一方で、韓国より何倍も長く朝の祈りを捧げる信者の姿に驚き、そのような信者のために、小さな聖堂で毎朝ミサを捧げる日本の教会の姿に感動しました。

　次に、韓国と日本の教会の共通点を深く感じることができました。それは殉教の霊性でした。韓国も日本も殉教者の血の上に建てられた教会なのだ、私たちの信仰の先祖が、激しい迫害の中でも命を捧げて守り抜いた教会なのだ、それがまさに私たち信仰のルーツ（根源）なのだ、という思いが取材中ずっと私たちの心の中で響いていました。

　また、私たちは同じイエスの体を受け持つ、イエスの体において兄弟姉妹であるということを実感する貴重な時間となりました。私たちが歴史的、社会的観念を離れ、信仰の中で一つの体を成していく仲間であるということを全身で感じることができました。

3．今後の目標や目的についてお聞かせください。

　今後、韓国と日本の関係、特に信仰の中で、私たちは一つだということを知らせるために努力するジャーナリストになりたいと思います。

　ドキュメンタリーの取材に協力いただいた、福岡教区と長崎大司教区のすべての関係者の方々に、この場を借りて深くお礼を申し上げます。

主のご降誕と新年のお慶びを申しあげます

教区長　ヨゼフ・アベイヤ
名誉司教　宮原　良治
司教総代理　中村　彰
教区本部事務局長　十時　伸治
教区本部会計　青木　悟
司教館
（ローマ留学）　船津　亮太
（韓国仁川教区・福岡カトリック神学院在住）　シン・トウキ

福岡地区
司祭の家　山頭原太郎
　畠山　七郎
　浦　俊雄
　平田　敬
糸島　山元　眞
（鹿児島教区）　山口　好信
大楠　M・パウロ
古賀　O・ベルナルド
　W・マヘル
　A・イルダヤラージ
笹丘　M・ヒルデン
　桑原　篤史
浄水通　牧山　勝美
大名町（能古島）　中村　彰
　ジョン・ウォンチョル
高宮　K・プラビン
茶山　岩下　和樹
西新　山元　眞
箱崎　G・マリアノ
　F・ブ・リン
光丘　十時　伸治
吉塚（南粕屋）　寺浜　亮司
老司　大山　悟
聖パウロ修道会　永富　久雄
　Br.小川　孝志
　Br.夫津木　勇雄
　Br.石水　智道
福岡カトリック神学院
（サン・スルピス司祭会）　牧山　強美
　湯浅　俊治
　大山　悟
　Q・ベルナール
　熊川　幸徳
福岡コレジオ
（長崎大司教区）　嘉松　宏樹
（長崎大司教区）　稲田　伸也
大濠会館・宣教養成センター　R・フィリピーニ
美野島司牧センター　M・コース
スペイン・マドリード教区　ヘスス・C・ロドリゲス

筑後地区
今村・本郷　竹森　勇
大牟田　田中　重治
小郡　川上　惣一
久留米　宮崎　保司
二日市　竹内　英次
聖マリア病院　G・ピアッツィーニ

北九州地区
飯塚　中村　信哉
黒崎・天神町・門司　杉原　寛信
　キム・ジョングン
小倉　青木　悟
　ルーカス・レック
新田原　井手　公平
田川（管理者）　下町　豊重
直方（管理者）　谷口　尚志
戸畑・若松　ソ・インデック
水巻　谷口　尚志
湯川　イム・ドンビン
行橋（豊津）　下町　豊重
パリ外国宣教会（八王寺）　L・ベリオン

佐賀地区
伊万里・多久　S・リチャード
鹿島・武雄　イ・ハヌン
唐津　江夏　國彦
佐賀　牧山　美好
　宮原　良治（協）
鳥栖（基山）　川上　惣一
呼子（松島）・馬渡島　D・アルビン
トラピスチヌ　岡崎　才蔵
ロザリオの園　L・マネルバ

熊本地区
荒尾・玉名　C・クラウディオ
武蔵ヶ丘（恵楓園）　平田　三好
崎津・大江・本渡　浦川　務
手取・帯山　櫻井　尚明
　キム・ソンチョン
菊池（山鹿）　S・ダロイト
健軍（高遊原）　渡辺　隆義
島崎　A・トゥルコ
人吉　F・マッケイ
八代・水俣　H・オカロール
　C・クラウディオ
真命山　S・フランコ
　園田　善昭

サンパウロ
福岡宣教センター
営業時間：10:00～18:00
定休日：日曜日・祝日
〒810-0042 福岡市中央区赤坂1-14-26
tel. 092-721-2032／fax. 092-739-3930
E-mail: fukuoka@sanpaolo.or.jp

不動産全般／売買・賃貸・管理
なんでもお問い合わせください
㈱ジャパン・スマイルか
代表取締役　マルガリタ・マリア 吉田由利子
〒810-0044 福岡市中央区六本松4丁目9番4号
TEL 092－761－8800
http:／／www.iruka－japan.com／

総合建築業
・一般住宅（新築・改築工事）
・鉄骨工事　・ＲＣ工事
建築の事なら何でもお気軽にご相談ください
有限会社 森山工務店
ヨゼフ　森山新太郎
福岡市早良区四箇1丁目15番28号
☎（092）811－7265

別れ・出逢い・旅立ち
草〔SOU-EN〕苑
カトリックのご葬儀
互助会制度もご利用できます。
木下株式会社
ＴＥＬ 092－526－5656
〒810-0016
福岡市中央区平和３丁目1-5

福岡の街に主の降誕の喜びを知らせる
第74回　福岡市民クリスマス

腹話術と手話の共演

12月1日（金）、冷え込んだ日だった。会場に着くとスタッフがずらり笑顔での出迎えには「来てよかった」という気持ちにさせた。手話のサポートと一緒の司会進行であった。実行委員長の日本バプテスト連盟福岡新生キリスト教会・竹田耶子武牧師はオリジナルの半袖のTシャツ姿で挨拶された。

第一部コンサートは福岡女学院中高生のハンドベルクワイアによるハンドベルの演奏。馴染みの曲を十曲近く演奏された。音色が素晴らしくとても癒された。

第二部は福岡ベタニア村教会の田口昭典牧師の講話。主は王であった…王の漢字の頭に光である炎を着け「主」になることを示された。講話は、自身の体験を涙ながらに話された。中学時代悪いことばかりして、反省すらしていなかった。そんな自分を母は泣きながら「もうやるでないぞ」と自分の後始末をしてくれた…そんな母のまなざしを見ていたら「もうやるまい」と心から反省した。人は愛されることで罪を告白できるということを実感した出来事の一例であった。また、友人と山道に迷って既に夜になってどうしようもなくなったところに遠方からちらりと明かりが見えた。その灯を目指して走った。両親が近所の人たちと一緒に懐中電灯を手にして探していたその懐中電灯の光だった。光で救われた一件だった。講話の最初には巧みな腹話術を披露された。

残念ながら会場は空席が目立ったが、長年続く貴重なキリスト教一致の企画である。これからも尽力していこうと強く思った。

報告＝笹丘教会　西山淳子

熊本　諸宗教対話の動き

交流の深まりと持続を願う参加者たち

10月22日（日）、熊本諸宗教対話98回目の活動に天理教東肥大教会を訪問した。木々に囲まれ、静謐な空気が流れている。広々とした堂内に案内され、小森正一会長以下6人の教会長に迎えられた。真命山のフランコ神父とSr.マリア・デ・ジョルジュによって、一段と親密さを増したカトリックと天理教との交流がビデオで紹介され、座にも和やかな空気が流れた。

小森会長によって天理教信仰のコアな部分が紹介された。この世を創造された親神様は人間と陽気暮らしをするために人間を創造されたという。陽気暮らしとは、だれも苦しむことのない社会を目指し、互いを尊重し、助け合う兄弟として生きる和気あいあいの関係を築くこと。これが信仰の目標であるという。表現は違っても、現代世界憲章の第二部が説く、キリスト者の務めと通じ合うものを感じながら耳を傾けた。

世界に1万7千、九州だけで千ほどの天理教教会が在るとの説明を驚きをもって聞いた。そして、宗教界への警戒心が強まる最近の社会の中、布教方法に話が及び、親から子どもへ信仰を伝える難しさ、近隣社会に溶け込む努力の体験などが語られ、問題を共有し合った。

天保の大飢饉の最中にこの教団を興した中山みきは、飢える人々のために私財を投じて尽力したという。無償の愛はいつの世にも人々の心を惹きつけ、神と人とをつなぐパイプであり、浄化を進める力なのだろう。様々な宗教者との出会いを楽しみ、刺激を受け、教えと協力を謙虚に交わしながら、この活動が深まり、続くことを願っている。

報告＝八代教会　長濱　聰

知りたい！ 福岡教区内の修道会 宣教会⑲

福岡教区には現在30の修道会・宣教会から司祭・修道士・修道女が派遣され、それぞれのカリスマで働いておられます。

昨春より紹介している、その修道会や宣教会。第19回は、カプチン・フランシスコ修道会です。

カプチン・フランシスコ修道会

日本で働く兄弟たちとカプチン会の総会で

カプチン修道会は、アッシジの聖フランシスコが創立したフランシスコ会の3つの修道会の一つであり、1525年、フランシスコ会に属するイタリア人司祭マテオ・ダ・バシオによって創立され、17世紀に入って完全に独立しました。当初の会則を厳密に守ることを目ざし、「祈りと宣教」を中心とした生活を送りつつ、キリストに従うことがカプチン会の目的です。修道服についている長い頭巾（フード）をかぶるその風貌から、カプチンと呼ばれるようになりました。

現在、働く兄弟は108カ国に、9,731人います。日本では、1947年に活動を開始し、現在、那覇、さいたま、福岡教区で働く12人の兄弟がいます。

カプチン会には3つの特徴があります。

◇会員はお互いのことを「Frater, 兄弟」と呼びます。共同生活を大切にするように招かれている私たちは、共同の祈りと食事を大事にし、時間を共有しながら兄弟愛を実践し、家族のようにお互いの成長を助けます。

◇キリストの生涯、聖書、アッシジの聖フランシスコの模範と著作にインスピレーションを受け、人々の間でシンプルな生活を送ることで「福音的共同体」を作り、世界中で愛されています。

◇祈りと黙想、司牧活動、社会奉仕を通じて、実践的な方法で「キリストから託された福音宣教」を果たす私たちは、これからも多くの人々にキリストの愛と優しさを伝えながら福音に根ざした生活を送って行くように努力いたします。

マスカレナス・パウロ・カールン神父

カトリックの愛の精神で
聖マリア病院開設70周年　聖マリア学院看護教育50周年

久留米市の聖マリア病院開設70周年・聖マリア学院看護教育50周年を記念する感謝のミサは、無原罪の聖マリアの祭日であった12月8日（金）、カトリック久留米教会で行われた。日本国内外のカトリック医療関係団体が参加した中、教皇からのメッセージも読み上げられた。

聖マリア病院は1953年、聖マリア病院附属聖マリア高等看護学院（現聖マリア学院）は1973年に始まった。創設者で初代理事長を務めていた井手一郎先生は「暖かい、開かれた心を持った人になって下さい」という想いで同病院スタッフや看護学生を支えていた。同病院は、戦後の復興期に結核主体の長期に渡る療養を提供する施設としてスタートしたが、その後、未熟児医療や精神科、救急医療などが次第に加わり現在の総合病院になった。看護教育は、「カトリックの愛の精神」を建学の精神とし、これまで看護師6878人、介護福祉士689人の卒業生を送り出した。

教皇からのメッセージを受け取る関係者

感謝のミサでは、同病院・大学にゆかりのある司教や司祭の他、韓国カトリック医療協会（1988年技術協力締結）、日本カトリック医療施設協会、日本カトリック医師会、近隣小教区の信徒ら約200人が参加。教皇からのメッセージは、アンドレア・レンボ東京大司教区被選司教が日本語で代読した。メッセージで教皇は「最も弱い立場にある人々にキリスト中心の医療を提供するという崇高な使命を継続するよう、推奨しておられます」と病院関係者らの精励を高く評価した。

聖マリア病院と聖マリア学院大学は昨年11月、バチカン市国バンビーノ・ジェズ小児病院と包括的な国際交流協定を締結、連携を進めている。

3年ぶりに開催
カトリック学校連盟研修会

11月10日（金）、聖マリア学院大学で、福岡教区カトリック学校連盟の研修会がコロナ禍を経て3年ぶりに開催されました。

カトリック学校は、学校経営を一般教育と共に教区司教の認可と指導の下にカトリック的に進める使命をもちます。そこで年に一度司教様をお招きし、全学校（小・中・高・大、計13校）の理事長・校長・学長が集い、教皇庁と時代の要請に基づいた研修会を行います。また、独自事業として毎年、中堅教員研修会・若年者教員研修会を開き、各学校間交流を図り、カトリックの理解者・協力者としての一般教員の養成にも務めております。

司教講話では、修道者や司祭が年々学校経営から退いていく現代、各学院・学校がカトリックのアイデンティティを保つために何が必要か、何ができるか、何がしたいかを明確にすること、そして対策・実践を進めることが求められました。加えて教区カトリック学校の統計（児童生徒・教職員総数における信徒の比率）を示され、社会に対してのカトリックの責任と使命を明らかにされました。

アベイヤ司教を囲んで

福岡海星女子学院附属小学校
校長　山田耕司

神学院感謝祭

11月21日（火）、福岡カトリック神学院で感謝祭が行われた。日頃神学院や司祭召命のために祈り、支えてくださる方々に、神学院が感謝を表すため毎年行われている。今回は、神学院で約半世紀に渡り司祭養成に全身全霊を注ぎながら、新共同訳聖書刊行にも尽力したゼノン・イエール神父（昨年8月に帰天、享年99）の生涯を称え、永遠の安息を祈る追悼式も併せて行うということもあり、主司式に大阪高松大司教区・教区長の前田万葉枢機卿、共同司式に11人の司教、そして司祭、修道者や関係者合わせ約190人が集った。参加できなかった人たちの感謝の想いは、案内状の返信にびっしりと書かれてあった。

ミサの説教で前田枢機卿は、福音箇所とイエール神父の指導方針を結び付け「神を中心にさえ置けば、全ての問題はほとんど解決できる」と話した。また、追悼セレモニーで挨拶に立った牧山強美院長は、イエール神父や歴代の神父たちの物まねを交えて笑顔を誘いながら想いを伝え、最後に「75年間、とてつもない人材、計り知れない能力、とんでもない額のお金、そして天文学的数字をもっても表現できない祈りと愛を注いで貰った神ご自身と、神に導かれた方たちの働きのおかげ」と感謝の意を表した。

ミサ後は食堂に場所を移して昼食会が開かれ、あちらこちらで昔話に花が咲いていた。

返信には沢山のメッセージが

BOOK 読みは専科

☆心がラクになる　新約聖書の教え
鈴木秀子（著）

『新約聖書』の言葉を現代風にわかりやすく解説。

苦しまない体質を作り、日頃の生活でどのように教えを実践できるのかイラストで紹介。『新約聖書』が、悩んだり、迷ったり、落ち込んだり、何かに挑戦しているあなたを勇気づけてくれます。

宝島社発行
税込価格1320円

社会医療法人 雪の聖母会

聖マリア病院
〒830-8543 福岡県久留米市津福本町422
TEL.0942(35)3322　FAX.0942(34)3115

聖マリアヘルスケアセンター
〒830-0047 福岡県久留米市津福本町448番5
TEL.0942(35)5522　FAX.0942(34)3306

信仰や理念を共有できる医師、看護師の皆さん
ご一緒に働いてみませんか

URL：http://www.st-mary-med.or.jp/

FPC 福岡プライマリケア訪問看護ステーション

自宅で療養されている方、在宅で看取りたい方、精神障害の方など、病気について、介護方法について専門的指導や援助が必要な方はご相談ください。
費用は医療、介護保険でのご利用になります。

春日市天神山7-91　TEL&FAX 092-517-6313
福岡プライマリケア株式会社　代表：エリザベト熊谷

年間目標　互いに支え合う交わりの教会となる

2024年1月28日 世界こども助け合いの日　献金

「世界こども助け合いの日」は、子どもたちが使徒職に目覚め、思いやりのある人間に成長することを願って制定されました。

この日はまず第一に、子どもたちが自分たちの幸せだけでなく世界中の子どもたちの幸せを願い、そのために祈り、犠牲や献金をささげます。

毎日のおやつや買いたいものなどを我慢して貯めた子どもたち自身のお小遣いの中から献金することが勧められています。日本では、各教会だけでなく、カトリック系の幼稚園や保育園の大勢の子どもたちがこの日の献金に協力しています。

この日の献金は全世界からローマ教皇庁に送られ、世界各地の恵まれない子どもたちのために使われます。

黙想と祈りの集いーテゼの歌と共にー
キリスト教一致祈祷週間（1月18～25日）に想いを合わせて

［主催］教区宣教・養成委員会
［日時］2024年1月26日（金）19:30-20:15
［場所］大名町教会小聖堂

《みことばに出会い、親しむ機会を》YouTube配信「みことばの配達」1～3月お休み、4月から新シリーズスタート

アーカイブ（これまでの「みことばの配達」）もご活用ください。https://fukuoka.catholic.jp/dedicated/mikotoba/

視聴者の方へのアンケート実施中
〆切1月20日（右記ＱＲコードから）

いずれも教区ホームページからご覧いただけます

いのりをともに
～聖体礼拝とキリスト教的ビパッサナー瞑想～

※2024年も引き続き毎月1回土曜日に行います。
［日　時］1月13日（土）16時～20時
［内　容］晩の祈り・キリスト教的ビパッサナー瞑想・夕食（食べる瞑想）・聖体礼拝
　＊部分参加可
［場　所］大濠カトリック会館・宣教養成センター（福岡市中央区大濠1-7-14）
［同　伴］礼拝会シスターズ
［問合せ先］TEL 080・4735・6971（礼拝会）

― 召命を祈る集い ―

福岡地区　1月16日（火）13時30分～ 大名町教会
〔問合せ先〕☎092・921・4532　山口

北九州地区　1月11日（木）14時～ 小倉教会
〔問合せ先〕☎0949・24・9905　藤井

熊本地区　1月15日（月）9時50分～ 手取教会
〔問合せ先〕☎0969・79・0015
大江・﨑津・本渡教会主任、浦川務神父

― 各種団体の定例会 ―

詳細につきましては、福岡教区ホームページ「教区報1月号」、または右記QRコードからご確認ください。

福岡教区広報室アドレス
http://fukuoka.catholic.jp
E-mail:cdf-kouhou@nifty.com

案内板　会合と催し

ホームレス支援　スープの会

2月から3月の2週目までの毎週金曜日に越冬炊き出し

【調理ボランティア】
14時～　大名町教会1階厨房
【夜回り（配布）ボランティア】
19時　初参加者レクチャー
20時　夜回り準備（袋詰め）
20時半　各コースへ編成決め
21時　各コース夜回り出発
【献品】
冬物の寝袋や防寒着、新品の下着・靴下、大きめのリュックサック、冬服
【問合せ】
深堀 080・1793・0481
飛永 080・4317・4152　前田 090・8412・7803

真命山諸宗教対話センター　－祈りの集い－

年間テーマ：真の幸せへの道
日　　時：1月11日（木）10時～15時
内　　容：「イエスは…群衆を見て、山に登られた」
指 導 者：S.フランコ神父（聖ザベリオ宣教会）
次　　回：2月8日（木）
内　　容：「神よ…あなたのほかに、しあわせはない」
指 導 者：S.フランコ神父（聖ザベリオ宣教会）
問合わせ先：真命山諸宗教対話センター
☎0968・85・3100 FAX 0968・85・3186
熊本県玉名郡和水町蜻浦1391-7
E-mail　shinmeizan@gmail.com
☆個人またはグループでの黙想会、研修会も歓迎いたします（要予約）

1月のこよみ

【1月】
1日（月）　神の母聖マリア　世界平和の日　大名町教会司式
7日（日）　主の公現　黒崎教会・堅信式
8日（月）　主の洗礼
10日（水）　ラウダート・シ委員会（東京）
11日（木）　常任司教委員会（東京）
14日（日）　年間第2主日　水巻教会司牧訪問
16日（火）　福岡カトリック神学院　静修日（～17日）
18日（木）　キリスト教一致祈祷週間（～25日）
19日（金）　教区顧問会
21日（日）　年間第3主日　神のことばの主日
天神町教会司牧訪問
キリスト教一致祈祷会（基督教団　福岡中部教会）
22日（月）　カプチン・フランシスコ修道会・黙想指導（沖縄～26日）
25日（木）　聖パウロの回心
28日（日）　年間第4主日　世界こども助け合いの日（献金）
西新教会・堅信式　教区宣教司牧評議会
福者小笠原玄也一家殉教記念日
29日（月）　鹿児島教区司祭集会（鹿児島）
30日（火）　福岡教区全司祭集会

【2月】
1日（木）　常任司教委員会・司祭生涯養成委員会（東京）
2日（金）　主の奉献　奉献生活の日
3日（土）　教区・世界奉献生活の日　講話と感謝ミサ
豊津教会司牧訪問
4日（日）　年間第5主日　行橋教会司牧訪問

■ゴチックは司教日程

※福岡教区で奉仕された司祭の帰天日は右記ＱＲコード、または教区ホームページのカレンダーでご確認ください。

集いの詳細は、各問合せ先にお尋ねください。

■美野島司牧センター
○ホームレスの方に温かい食事と衣類　毎週火曜日10時
○ホームレス支援炊出し
調理　毎週金曜日14時
夜回り　20時から
○路上からアパートに入居した方を訪問　第3土曜日14時
〔問合せ先〕☎092・431・1419コース・マルセル神父

■聖体といやしの家
ご聖体のある家でミサと礼拝のある今を過ごしてみませんか？必要があればシスターや社会福祉士が同伴できます。
〔問合せ先〕☎080・4735・6971礼拝会

編集後記

広報室には、日本の16教区全ての教区報が届く。

新年号の発行に向け絶賛ジタバタ中のところ、長崎大司教区から一足早く1月号が届いた。1面は教区長・中村倫明大司教の年頭の手紙で、タイトル「チェックをお願いします」。何ともユニークな表題の後には、主日・クリスマス・神の母聖マリアの文字とそれぞれの下に人数が書き込める「表」がある。「ミサの参加者数でも調べる？」と仕事柄すぐ浮かんだが違う。「最近のミサの前後に、あなたは何人の方とことばを交わしましたか」、その人数を入れるのだ。大司教がもっとも大切なことだと真剣に考えておられる「声をかけていきましょう」からのお願いであった。

この仕事を始めた時の初心表明「♪一年生になったら、友だち一〇〇〇人できるかな」の目標は、未だドキドキながら原稿依頼や取材などでゆっくりだが近づいている。が半面、所属教会には行けていなかった。アベイヤ司教も年頭挨拶で「対話を深めることが必要」と語りかけている。

「一年の計は元旦にあり」よし、一日のミサでは声をかけまくろう！マリア様も背中を押してくれるに違いない。何人に声かけできるだろう。皆さまもご一緒にいかがですか。（W）

Đời sống đức tin Công Giáo của các bạn trẻ ở Giáo Xứ Yukuhashi
カトリック行橋教会でベトナム青年たちの信仰生活

Giáo Xứ Yukuhashi thuộc Giáo Phận Fukuoka không phải là một Giáo Xứ lớn, nhưng các bạn trẻ Công Giáo Việt Nam đang tăng lên. Khoản 5 năm trước, năm 2017 những bạn trẻ đã biết đến Giáo Xứ và đã tham dự các Thánh Lễ bằng tiếng Nhật. Kể từ đó, Những bạn trẻ đó đã kêu gọi những bạn khác và hiện tại bây giờ đã tăng lên gần khoảng 30 bạn.

Hiện nay, số người trong cộng đoàn đang dần dần ổn định. Ca đoàn, giúp lễ, ban truyền thông hay ban tiếp nhận đang được đưa vào điều hành . Hơn nữa, anh Nguyễn Văn Dũng với tư cách là đại diện các bạn trẻ đã hỗ trợ các bạn nhiều trong việc thông dịch cũng như chuẩn bị trước Thánh Lễ. Nhờ có sự hỗ trợ của Giáo Dân Giáo Xứ và Cha Quản Xứ cũng như dưới sự hướng dẫn và chỉ đạo của Cha Gioan Baotixita Phạm Văn Thuyên cứ mỗi tháng có 1 lần Thánh Lễ bằng Tiếng Việt vào Chủ Nhật tuần thứ 3 , bất kể nắng, mưa hay tuyết mọi người vẫn tham dự Thánh Lễ .

Sau Thánh Lễ thì mọi người thường tập trung lại cùng nhau nói chuyện chia sẻ những khó khăn trong cuộc sống làm việc và học tập. Không chỉ một lần Thánh Lễ Tiếng Việt mà chủ nhật mỗi tuần mọi người cũng nhiệt tình tham dự Thánh Lễ chúa nhật bằng Tiếng Nhật và tham gia cống hiến vào các hoạt động tình nguyện của Giáo Xứ. Như nhặt rác ở bãi biển hay cùng làm Hang đá Giáng Sinh....Để cho cộng đoàn lớn hơn, thì mọi người đã tạo nhóm Facebook để khi có chuyện khó khăn hay có bất kỳ thông báo nào từ bạn phục vụ thì mọi người có thể biết và có thể thảo luận trên đây. Khi dịch Corona bùng phát, và không có Thánh Lễ thì mọi người cùng nhau cầu nguyện online vào mỗi tối Chủ nhật hàng tuần.

Tương lai, để Giáo Xứ Yukuhashi lớn mạnh hơn mong mọi ngươi tiếp tục cầu nguyện và giúp đỡ chúng con.

行橋ベトナムコミュニティの皆さん

カトリック福岡司教区では行橋小教区に限らず、ベトナム青年の信者たちが増えています。6年前の2017年、数人のベトナム青年が行橋教会を知り、日本語のミサに参加しました。それ以来、その人たちが他のベトナム青年たちに声をかけて、今では30人近くに増えています。

現在ではこのベトナム青年の共同体の人数は安定しつつあり、典礼、ミサ奉仕、通信、受付の各委員にグループ分けをして運営しています。この共同体の代表としてペトロ・グエン・ヴァン・ズンさん（Nguyen Van Dung）がベトナム語ミサを準備し通訳や様々なお手伝いをしています。行橋教会の信者さんたちや主任の下町豊重神父様の協力を受け、ヨハネ・ファン・バン・テュエン神父様（Pham van thuyen）が毎月第三日曜日にベトナム語のミサを行い、私たちの指導、司牧をしてくださいます。

晴れでも雨でも雪の日でも皆ミサに参加します。ミサ後は皆が集まって日本での仕事の問題や日本語の学習や日本の生活について話し合っています。月一回のベトナム語のミサだけでなく、毎週日曜日の日本語のミサにも皆熱心に参加しています、教会のボランティア活動にも参加しています。例えば近くの海岸でゴミ拾いをしたり、ご降誕の馬小屋を作ったりして奉仕しています。また共同体の結びつきを強めるために、フェイスブック（Facebook）のグループを作り、困りごとは相談したり、お知らせをしたりしています。コロナウイルスが拡がりミサが無かった時も、皆で毎週日曜日の夜にオンラインでお祈りを捧げました。

これからも行橋教会がさらに良くなるように、引き続きお祈りとサポートを宜しくお願いします。

私たちと一緒におはなししませんか？
10代～40代のみなさま
こんな悩みをお持ちでないですか？
相談は無料です。
必要に応じて専門機関の情報提供もいたします。ひとりで悩まずに、お気軽にご相談ください。秘密は厳守します。

安心してお話が出来る人をお探しの方へ。
メール：hanahanahimawari2020@gmail.com
☎：080-4735-6971（9:00－21:00）
※対応できないときもあります。
※原則1回30分です。
LINE 右記QRコード
―ぷろじぇくとHana―
ぷろじぇくとHanaは、社会福祉士・看護師・シスターなどが在籍している、礼拝会を中心としたグループです。

福岡教区セクハラ対応窓口

セクハラを受けたら、見かけたら、ご相談ください。ひとりで悩まず、早めに相談

セクシュアル・ハラスメント相談窓口
電話　080-2694-4182
受付時間　月～金（祝日を除く）
10:00～12:00　13:00～16:00